

## 職員として単位互換制度の準備・運営に携わって

西田 邦昭

立教大学は、2001年4月から、学習院大学、学習院女子大学、日本女子大学、早稲田大学との間で5大学間交流を、また、聖公会関係学校である聖路加看護大学、立教女学院短期大学との間で学生交流を開始しました。学部レベルでの本格的な「単位互換制度」の導入であり、本学にとっては「単位互換元年」とも呼べる意義深い年となりました。私は教務部の職員として、他大学の教務部の方々との事前準備に携わり、現在はその運営に携わっています。今回の経験は私個人にしましても、教務部にしましてもとても貴重な体験でしたし、現在も進行形です。

私が5大学間の交流の話をはじめて聞いたのは、1999年の春頃だったと記憶しています。本学と地理的に近い学習院大学や早稲田大学の学長、総長との間で単位互換を中心とした大学間交流を始めたいとの話が出ているというものでした。やがて、事務局で一度集まり今後の方向性について会合を持つことになり、当時の教務部副部長が出席しました。本学は2000年4月に教務部の大幅な組織改革を控えていましたので、実施は2001年度

からに先延ばししていただいたとの報告を受けました。その後教務部の組織改革は様々な事情から1年先送りになり、1999年の冬に新組織を2001年4月からスタートさせることが正式に決定し、教務部は組織をあげて本格的な取り組みを開始しました。当然、学生交流も1年先送りになるものと考えていました。

大学執行部から5大学間の交流を予定どおり2001年4月から開始するとの話が飛び込んで来たのはまさにそうした時期でした。正直、現場を預かるものとして、「何でこんな大変な時期に……!」というのが率直な感想でした。そしてしばらくして、本学と聖路加看護大学、立教女学院短期大学との学生交流も2001年4月から開始するので、その準備を進めるよう執行部から指示がありました。それからは現場の説得、各大学との調整、学内の合意形成等々、解決しなければならない課題は山のようにありました。

他大学の教務部の方々との打ち合わせはとても有意義なものでした。それぞれの大学には異なる教育理念があり、意思決定のあり方から履修や試験・成績などの教務事項に関わる事柄まであらゆるレ

ベルで異なっています。聖路加看護大学と立教女学院短期大学とは1対1の単位互換ですので大きな問題もなくスムーズに進めることができましたが、5大学間の学生交流では、一方で互いの違いを認め合い、他方で一致点を見つけ出す、という極めて困難な作業が続きました。事務局同士で合意できても各大学内で合意を得られなければ意味がありません。5大学の事務局の打ち合わせと各大学の学内調整との往復作業が続きました。各大学とも学内調整にはかなり苦労したようです。立教大学においても当初は、トップダウンで進められた今回の交流を、学部教授会レベルでは必ずしも好意的には受け止められませんでした。幾つかの学部教授会には直接お伺いし説明させていただきました。

12月7日、5大学間交流の調印式が私学会館で開かれ、多くのマスコミ関係者が見守る中、各大学の学長、総長が協定書に調印されました。当日は、交流の目玉の一つであるWebによる履修登録システムのデモンストレーションが行われました。今回の交流は、交流学生数は延べ3000名程度、提供科目数は500科目程度を予定していました。とても各大学の教務部では対応しきれない規模なので、当初から早稲田大学を中心にWebによる履修登録システムの開発に着手しました。これが実現出来ていなければこれだけ大規模な交流は実現不可能でした。

調印式以降、学生への広報活動を活発に行い、3月24日には各大学のホーム

ページで提供科目、担当者、開講学期、シラバス、時間割などの情報を見ることが出来るようにしました。そして4月2日12時から6日15時まで履修登録受付を行いました。本学では締め切り直前、8号館のコンピュータ教室は履修登録を行う学生で溢れかえていました。初めてのWebによる登録ということで学生の混乱を心配し教務部の職員がコンピュータ教室に待機しましたが、学生たちは戸惑うことなく履修登録を行っていました。

聖路加看護大学、立教女学院短期大学とは1月25日、本学において調印式を行いました。2001年度は本学が両大学の学生を受け入れるという形でスタートしました。規模的にも小さなもので、履修登録は両大学の教務課で行っていただき、その結果を本学の教務部に連絡いただくという方法で行いました。

5大学間交流の初年度の提供科目は、学習院大学108科目、学習院女子大学38科目、日本女子大学75科目、早稲田大学580科目、そして立教大学は244科目でした。予め大学の規模に応じて各大学が提供する互換単位数（各科目における単位数×受入枠数の合計）の目安を決め、それに依拠してどのような科目を提供するか、1科目あたり何人受入れるかは、初年度ということもあり各大学に任せることになりました。結果的には、それぞれの大学が展開している幅広い専門科目と教養科目が提供され、学生にとっては非常にバラエティに富んだ数多くの科目の中から希望科目を選び申し込む

ことが可能になりました。本学も専門科目と全学共通カリキュラムの総合教育科目を提供しましたが、初年度ということもあり、専任教員が担当している科目の中から選ぶこととし、1科目あたりの受入人数を上限5名までとしました。

学生1人あたりの履修申込単位数の上限は12単位までとしました。一人ひとりの希望が100%満たされ、希望どおり履修できればよかったです。申込みが集中し、抽選せざるをえない科目もかなりの数に上りました。また、申込みを行った科目がすべて許可になった学生もいれば、ことごとく抽選に外れてしまった学生もいたようです。他大学の学生が本学の科目を申し込んだ大学毎の延人数と当選した延人数の結果は表1、本学の学生が他大学の科目を申し込んだ大学毎の延人数と当選した延人数の結果は表2のとおりです。また、本学の学生が申し込んだ大学毎の提供科目ベスト10は表3、他大学の学生が申し込んだ本学の提供科目ベスト10は表4のとおりです。

表1からは、本学の学生が、当然のこ

とながら提供科目の多い早稲田大学の科目に集中したこと、提供科目数に比べ日本女子大学の科目に比較的多く申し込んだことなどが見て取れます。また、表2からは、本学の科目に対して、提供科目数に比べ学習院女子大学、日本女子大学の両女子大学からの申し込みが比較的多かったことが見て取れます。表3は、大学毎の特徴がよく出ています。本学の学生は、学習院大学では文学部の心理学系の専門科目を、学習院女子大学では「日本」「国際」などが科目名の頭に付いた文化学部と国際文化交流学部の専門科目を、日本女子大学では日常生活に関わりの深い家政学部の専門、教養科目を、早稲田大学では政治経済学部、人間科学部（西早稲田開講）、第一文学部の文化的な色彩の濃い科目や政治学系の専門、教養科目を多く申し込んでいます。表4では、各大学の学生が、本学の心理学系の専門科目、全学共通カリキュラムの心理学系、総合Bの科目を多く申し込んでいることが見て取れます。因みに、両女子大学で1位となった「心の思想」は全学共通カリキュラムの科目ですが、シラバスには

表1 <他大学から立教へ>

(延べ数)

学習院		学習院女子		日本女子		早稲田		合計	
希望	当選	希望	当選	希望	当選	希望	当選	希望	当選
129	98	47	19	114	67	733	334	1023	518

表2 <立教から他大学へ>

(延べ数)

学習院		学習院女子		日本女子		早稲田		合計	
希望	当選	希望	当選	希望	当選	希望	当選	希望	当選
81	81	95	60	171	98	458	385	805	624

「人格心理学，発達心理学をベースに青年期の恋愛を問い直し，自己理解，他者理解を深める方法について考察する」と書かれています。「なるほど!」という感じがします。また，各大学でベスト10に入っている「遊びと人間」は外部からの講師を招き複数の担当で授業を行う総合Bの科目です。学習院女子大学と早稲田大学でベスト10に入っている

『戦争』を考えるも総合Bの科目です。将来的に各大学がどのような科目を中心に受入枠を拡充していけば学生の期待に応えられるか，表3，表4から読み取ることができそうです。

聖路加看護大学の学生受入は，同大学のカリキュラムとの関係で，1年次生が火曜日に全学共通カリキュラム総合教育科目を履修する形でスタートしました。

表3 <立教大学の学生が希望した他大学提供科目ベスト10>

	学習院大学	人数	学習院女子大学	人数	日本女子大学	人数	早稲田大学	人数
第1位	性格心理学	15	日本人論Ⅰ	4	生活・環境	19	ピラミッド文明論	28
第2位	経済学特殊講義	9	国際経営Ⅱ	4	栄養学	11	エジプト文明論	26
第3位	発達心理学	5	国際政治Ⅰ (歴史と現状)	3	住居論(製図を含む)	11	映像文化論A	23
第4位	教育心理学	5	日本生活文化史Ⅱ (葬祭と装い)	3	光情報処理	5	映像文化論B	23
第5位	認知心理学	5	現代文化論Ⅰ	3	住環境行動論	5	映像論	18
第6位	臨床心理学	5	国際コミュニケーション論Ⅱ	3	生活・環境	4	21世紀における企業革新	15
第7位	日本経済論	4	国際経営Ⅰ	3	数理・自然	4	政治学研究	14
第8位	私法概論	4	アメリカ文化論Ⅰ	3	乳幼児運動心理学	4	音と音楽の表現領域	13
第9位	言語と文化	3	日本人論Ⅱ	2	人間・女性	4	日本語をみがくⅠ	12
第10位	芸術学	3	アメリカ文化論Ⅱ	2	芸術・思想	3	政治学研究	12
	哲学講義	3	現代生活論Ⅱ	2	人間・女性	3		
	東洋史特殊講義	3	生活環境論Ⅲ(基礎食物学)	2	食料経済	3		
	西洋史特殊講義	3	国際関係論Ⅶ(日米関係)	2	情報統計学	3		
	社会心理学	3	イタリア文化論Ⅱ	2	食生活論	3		
					福祉環境論	3		
					人間・女性	3		

表4 <他大学の学生が申し込んだ立教大学提供科目ベスト10>

	学習院大学	人数	学習院女子大学	人数	日本女子大学	人数	早稲田大学	人数
第1位	臨床心理学2	5	心の思想	8	心の思想	7	臨床心理学2	10
第2位	心理学特講3	4	企業と社会	6	心理学特講3	5	社会心理学1	10
第3位	心理学特講1	4	臨床心理学2	4	産業心理学1	5	消費社会論	10
第4位	遊びと人間	2	遊びと人間	4	マーケティングリサーチ	5	心理学特講5	9
第5位	産業心理学1	2	紛争地の人権	4	遊びと人間	4	オペレーションリサーチ1	9
第6位	社会の思想	2	『戦争』を考える	3	社会の思想	4	日本社会とカルト宗教	8
第7位	心の科学4	2	アメリカン・ウェイ・オブ・ライフ	3	心の科学2	4	産業心理学1	8
第8位	コミュニケーション	2	情報法2	3	教育社会学2	4	心理学特講3	7
第9位	国際経営論	2	メンタルヘルス	3	現代社会と法	4	遊びと人間	7
第10位	平和学から見た環境問題	2	日中サブカルチャーの伝統と現代	3	社会心理学1	3	『戦争』を考える	7
	人類の科学2	2	心の思想	3	臨床心理学2	3	心の科学総論1	7
	科学技術の明と暗	2	マイノリティの文学	3	インドの思想	3		
					仕事と人生	3		
					アメリカン・ウェイ・オブ・ライフ	3		
					行動生態学	3		
					個人と社会	3		
					江戸と文学	3		
					諸宗教と思想1	3		